



大阪大学  
OSAKA UNIVERSITY



Vol.28  
2021年10月号

News  
Letter

おおきに健康

# 歯とお口から

大阪大学歯学部附属病院 広報誌 <https://hospital.dent.osaka-u.ac.jp/>



病院長 林 美加子

今年は、長引く新型コロナ感染症、長雨、オリンピック・パラリンピック開催など、異例づくめの夏となりました。とりわけ東京で大変な勢いで市中感染が広がったコロナ第5波も、9月に入って全国的に減少傾向に転じてきました。ただし、希望される方へのワクチン接種が進んでいるとはいえ、ブレイクスルー感染も確認されています。これからの寒い季節に向かって第6波は高い確率で発生すると考えられていますので、油断は禁物です。

歯学部附属病院では、これまで1年半におよぶコロナ感染対策の経験を生かして、できる限り通常診療を継続することを目標に掲げてきました。変異するたびに感染力が強くなるウイルスに対して、大学本部の安全衛生管理部および医学部附属病院感染制御室と頻りに意見交換をして、最新の科学的な情報に基づいて病院は全力で感染対策に取り組んでまいります。患者の皆様におかれましても、感染コントロールの観点から、手洗い、マスクの標準予防策を徹底して、日々の行動への注意をお願い申し上げます。

## 内面

- 特集 1.  
口腔がん患者さんの「ことば」の回復を目指して
- 特集 2.  
第18回市民フォーラム「女性のためのオーラルヘルス」の開催について
- 病院からのお知らせ

お口の相談コーナー  
お口のマメ知識

## 裏面

- 2021年7～9月の統計情報
- 病院概要



大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能治療学教室 准教授 野原 幹司

大阪大学歯学部附属病院の口腔がんセンターでは、がんの治療はもちろんのこと、術後の「ことば(話す機能)」の障害のリハビリにも力を入れて取り組んでいます。口腔がんの手術では話すときに大事な役割をしている舌や歯肉を切除するため「ことば」が障害されることがあります。多くの患者さんはリハビリによって日常生活に不自由ない程度まで回復しますが、なかにはどんなにリハビリを行っても後遺症が出てしまう患者さんもおられます。具体的には「電話で話が通じない」、「買い物のときに聞きとってもらえない」といった困りごとを訴えられる患者さんも少なくありません。

今回、そのような患者さんの失われた「ことば」を取り戻すため、顎口腔機能治療部・医療情報室では新たな治療法の開発プロジェクトに着手しました。私たちが着目したのがディープラーニングを用いたAI(人工知能)による音声認識です。口腔がん患者さんの音声は、初対面の人より、日常での会話頻度が高い人の方が「聞き慣れて」いるため精度高く聴取されることが知られています。この会話頻度の「経験」をAIにさせて(AIに「聞き慣れ」させて)、AIの音声認識の精度を最大限に上げ、その認識された音声をアウトプットできるツールができれば、術後患者さんもスムーズにコミュニケーションを取ることが可能になります。



ディープラーニングによる音声認識のイメージ  
はじめは「りんご」ということが通じなくても、ディープラーニングすれば「りんご」という単語をAIが聞きとれるようになります。

プロジェクトの第一段階としては①AIが患者さんの音声を正確に認識できるようになるための方法論・アルゴリズムの開発を行います。将来的には、第二段階として②認識された音声をスムーズに、できるだけタイムラグなく人工音声などでアウトプットする方法を確立し、第三段階(実装)として③認識できた音声をアウトプットできるようなツール・アプリの開発を目指しています。

近い将来、「PCやスマートフォン(AI)に向かって音声を録音する=AIに自分の音声を学習させる」ということがリハビリの一つになるかもしれません。今回のプロジェクトでは、そのようなまったく新しい概念の「未来型リハビリテーション」の開発を目指しています。



口腔がん患者さん用の翻訳機のようなツールが開発できれば、スムーズなコミュニケーションが可能になります。

※本研究プロジェクトはクラウドファンディングによるサポートを受けています。

★クラウドファンディング詳細★  
口腔がん：がんで失った「ことば」を取り戻す、新規言語治療法の開発を

URL : <https://readyfor.jp/projects/handai-kotoba>  
募集期間：2021年9月1日(水) 10時～10月29日(金) 23時

ご支援をご検討いただける方は上記URLにアクセスしてください。

ご支援頂いた皆さま、ありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

2021年11月27日(土) 13:00～16:00 オンライン開催

「知って納得、女性特有的なお口のニオイ～その原因と対策～」



久保庭 雅恵 大阪大学大学院歯学研究科 予防歯科学教室 准教授  
近年、医療の現場に、虚血性心疾患や心の病気など男女共通の病気にも性差があることを考慮した「性差医療」の概念が導入され、注目されています。歯科の現場でも、生涯メンテナンスを実施する上で、性差とライフステージを意識した視点を持って患者さんに向き合うことが重要です。今回、女性特有のホルモンバランスの変化が口腔環境、特に口臭に及ぼす影響についてご紹介させていただき、その対策についてもお話する予定です。

「口の中の疾患と女性ホルモン」



波多 賢二 大阪大学大学院歯学研究科 生化学教室 准教授  
女性ホルモンは体の様々な機能を調節する大切なホルモンです。女性ホルモンは多すぎても少なすぎても体の不調や病気の原因となります。口の中も例外でなく、女性ホルモンは歯を支える骨や歯ぐきだけでなく、歯周病の原因となる細菌にも関係することが最近の研究で分かっています。今回は、女性ホルモンが大事な働きをしている「骨」の話題を中心に、女性ホルモンと口の中の病気についてお話しさせていただきます。

「母と子の歯の健康のはなし」



大川 玲奈 大阪大学大学院歯学研究科 小児歯科学教室 講師  
生まれたばかりのお子さんのお口の中には、むし菌は存在しません。歯が生えたと、お母様をはじめとした、ご家族のお口の中にいるむし菌がお子さんに伝播し定着します。乳歯がむし菌になると、痛い、咬めない、といった症状だけではなく、永久歯の歯ならびにも悪い影響を及ぼします。また、乳歯のむし菌をしっかり治療しないと、永久歯に生えかわっても、むし菌になりやすくなってしまいます。今回は、お子さんのお口の健康のために、お母様に知っておいていただきたいお子さんのむし菌予防法についてお話ししたいと思います。

「生涯、健康で美しい口元でいるために」



岡 綾香 大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔矯正学教室 助教  
矯正歯科治療といえば、多くの方々は針金などを使って子供の歯を並べる治療を連想されるのではないのでしょうか。しかし、現代の矯正歯科治療は若い世代のためだけのものではありません。矯正歯科治療は、歯を並べるのみならず、歯を支える顎の形態の不調和を改善し、その結果、生きる上で欠かせない食べる・話すといったお口の機能とお顔の見た目を改善します。ひいては、クオリティオブライフ(生活の質)の向上を目的としています。今回、成人の矯正歯科治療についてお話を頂き、少しでも皆様の健康づくりにお役に立てれば幸いです。

「素敵な笑顔は健口から」



森田 和子 大阪大学歯学部同窓会  
私は地域医療に従事して20年余りになります。その日々の中で実感するのは、女性は日常生活を支えるキーパーソンとして本当に頑張っているということです。女性たちの心身の健康を端的に表す素敵な笑顔、私は歯科医師としてサポートしてゆきたいと思っています。「健康」は「健口」からという認識が広まる中、歯科検診受診率は上がってきていますが、進化した歯周病患者の割合は改善されていません。SDGsな取り組みとしても歯周病定期検診の受診を提案したいと思っています。

日時 ● 2021年11月27日(土) 13:00～16:00  
開催方法 ● オンライン開催  
申込方法 ● 大阪大学歯学研究科HPのweb申込フォームより事前申込  
参加費 ● 無料  
①氏名・②住所・③性別・④年齢・⑤連絡先(電話・Eメール)を明記の上、以下よりお申込みください。  
<http://www.dent.osaka-u.ac.jp/forum.html>  
Eメール：pf-sanka@ml.dent.osaka-u.ac.jp

※詳細はホームページをご覧ください。 大阪大学 歯学部 市民フォーラム 検索

休診お知らせサービス(SMS)、是非ご登録ください。登録者数増加中!

地震などの自然災害や新型の感染症など様々な理由により、病院が休診となった場合に、登録している携帯電話へ、ショートメッセージ(SMS)で休診をお知らせするサービスです。本サービスをご利用いただくには、事前に登録が必要です。ご自身のスマートフォンや携帯電話で、二次元コード(上)を読み取ってアクセスし、登録をおこなってください。詳しくは、二次元コード(下)をご覧ください。

休診のお知らせサービス 二次元コード(初期登録用)

登録方法はこちらをご覧ください。

口唇腫瘍(できもの)の治療で大切にしていること

口腔外科学第二教室 准教授 松永和秀

口腔外科領域において、血管の拡張や増殖によってできる良性的腫瘍で、血管腫(けっかんしゅ)という病気があります。血管腫の色は暗紫色で、大きく膨らむこともあり、形は様々です。血管腫は、口唇にもできやすく、腫瘍が次第に大きくなると口唇の変形をきたすこともあります。その際は適切な治療が必要となります。血管腫の治療法はいくつかありますが、外科的治療も方法の1つです。私たちは、外科的治療を行う際、大切にしていることが2つあります。1つ目は腫瘍を確実に摘出すること、2つ目は患者さんの口唇の形態と機能を最大限に考えて手術をすることです。

今回、私たちが経験した下唇に生じた血管腫の2例を提示いたします。いずれも下唇に大きな血管腫を認め、口唇の変形をきたしていました。画像評価を行った後、外科的治療を行いました。手術は、血管腫を摘出した後、口唇の形が左右対称になるよう、また口唇の閉鎖ができるように口唇を形成しました。手術前、手術後の写真を右に示します。2例とも術後口唇の形態および動きも良好です。



口唇の腫瘍(できもの)で気になることがありましたら、口腔外科医にご相談ください。

こどもの嚥下(飲み込み)障害?



嚥下(飲み込み)の障害といえはみなさんお年寄りを思い浮かべるのではないのでしょうか?実は、食べたり飲み込んだりすることがうまくできないお子さんもいます。大人の場合は、いったん獲得された嚥下機能が何か疾患や老化により低下してしまうので、それを取り戻すリハビリを行います。一方、こどもの場合は、嚥下機能が獲得される前に障害がみられるので、発達に合わせながら、促して新たに獲得し、食べることの楽しみ、味などを学習していくリハビリになります。

嚥下障害の原因となる疾患は、口から食道など消化器に形や機能に異常のあるものや脳性麻痺や筋ジストrophyのように神経・筋に障害のあるものなど様々あります。そのため主訴や症状も「むせる」「嘔吐する」「噛めない」など幅広くあります。顎口腔機能治療部では、原因疾患を把握し、必要なお子さんは飲み込みの検査(嚥下造影検査、図1)や食事観察を行い診断し、リハビリを行っています。時には言語聴覚士(ST)と一緒に食べる・噛む練習を行っています(図2)。

こどもにとって食べることは、成長のための栄養摂取として大事です。私たちはそれだけではなく、食べることはコミュ

顎口腔機能治療部 尾花 綾

ニケーションであり、「おいしい」や「楽しい」を知ってもらうことを大切にしています。障害の有無にかかわらず、みなさんも食べることの「楽しさ」をお子さんに伝えてみてください。



図1 嚥下造影検査  
ご両親と一緒に撮影もでき、痛みや不安を少なくしながら検査をします。

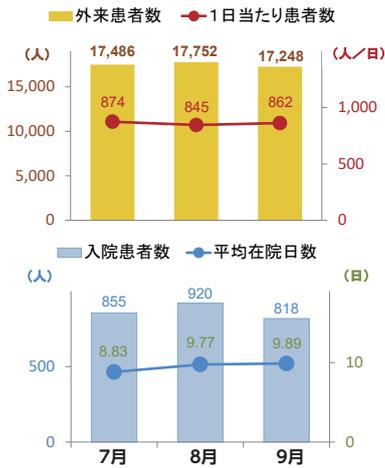


図2 咀嚼訓練の様子  
落ち着いた部屋で、痛みや不安を少なくしながら噛む練習をします。

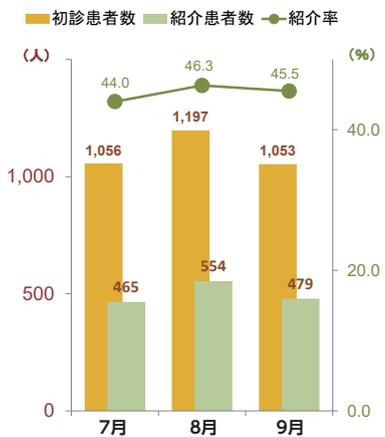


# 7月～9月患者数等統計

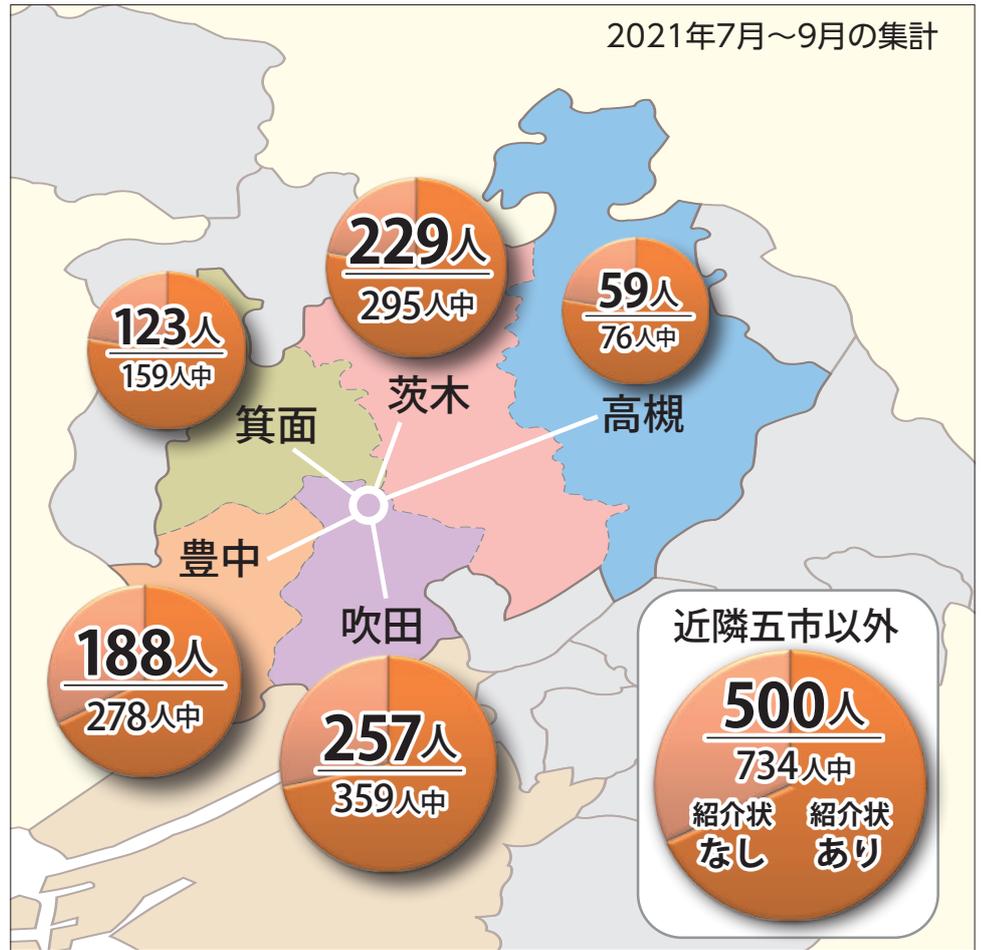
## 外来患者数・入院患者数



## 初診患者数と紹介患者数比率



## 近隣五市の新来患者に占める紹介状持参患者数



## 病院概要

診療日：月～金 休診日：土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

受付時間：【初診受付】8時30分～11時30分（初めて受診の方、紹介無し可）  
【再診受付】8時30分～15時00分（原則として全科予約制）

住所：〒565-0871 吹田市山田丘1番8号

電話番号：（代表）06-6879-5111（時間外）06-6879-2848

標榜診療科：歯科、矯正歯科、歯科口腔外科、小児歯科

### 診療内容

口腔衛生指導、虫歯治療、歯周病治療、歯周再生治療、差し歯、入れ歯、インプラント治療、口腔癌治療、口唇口蓋裂治療、障害者歯科治療、摂食・嚥下、スピーチ治療、スポーツ歯科、口臭外来、ドライマウス外来、睡眠時無呼吸、歯の外傷治療等

電話による病気や症状に対する相談には再診料がかかりますので、ご承知ください。

夜間休日の緊急診療につきましては、あらかじめお電話(06-6879-2848)のうえ、お越しく下さい。

入院患者様へのご面会は新型コロナウイルス感染対策の観点から当分の間、原則禁止とさせていただきます。

## 病院へのアクセス

[https://hospital.dent.osaka-u.ac.jp/hospital/hospital\\_000009.html](https://hospital.dent.osaka-u.ac.jp/hospital/hospital_000009.html)

歯学部附属病院にお車で越しの際は、西門（歯学部門）よりお越しく下さい。

**看護師・歯科衛生士  
募集中！**

—お問合せ—

歯学研究科総務課人事係  
06-6879-2834 まで

